

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各入居者が過ごしていた生活歴を尊重しながら、安全に安心できる生活を送る事ができると内容を、理念に取り入れている。職員は大まかではあるが、当ホームの地域密着型サービスとしての役割を理解している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングの時や職員会議、個人面談などの時間を活用し、理念をベースにおける援助を行なうよう、努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念はパンフレットやホームページにも明示されており、事業所見学者や事業所利用開始時には、御家族にパンフレットを用いて、理念の説明をさせていただいている。交流にいらっしゃる地域の方々にも、館内案内時には理念の説明を含めた案内をするように心がけている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に町会の方々と交流会を設け、馴染みの関係を築ける取組みを行なっている。 ・地域の方々とは、散歩や買い物時に、挨拶や立ち話をする機会がもっている。 ・町内会の行事にも、参加できる内容のものに関しては、参加するようにしている。 ・交流会の意見交換の場では、御家族の介護相談にのる事もある。 ・運営推進会議では、町会役員や民生委員が参加しており、町会の方々との交流時の、橋渡しの役割を果たしていただいている。 	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は、当ホームの運営面と、全スタッフにとって自身を省みる機会として位置づけている。・外部評価では、調査員の方々に、第三者からみた客観的な視点から、普段業務に就いている私達が見落としている点を指摘していただき、更なるサービスの質の向上を図る機会としている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、前回の運営推進会議以降の入居者の状況を、写真などを活用し行なっている。併せて、次回の運営推進会議までに予定されている行事を発表し、参加者より意見を聴取し、サービス向上に生かすようにしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・地域包括支援センターの方には、運営推進会議に参加していただき、ホーム側としても、圏域内の包括支援センターで開催している地域ケア会議に参加し、状況報告などをする中で、意見交換を行っている。 ・市へは、運営推進会議の議事録の提出や、自己評価・外部評価の結果も、報告している。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・管理者は入居者が成年後見人制度の申立てが必要になった際、家庭裁判所へ行き概要の説明を受けている。また成年後見制度のセミナーなどを聴講する機会を持ち、更なる研鑽を積んでいる。職員へは、けんしゅうの資料を閲覧してもらい、理解する場を設けるようにしている。	○ 職員も、外部の研修や職場内研修会などの場で、更なる知識の習得できる機会をつくっていききたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・管理者は高齢虐待に関する研修会に参加しており、職員へも資料を閲覧してもらい、理解する場を設けるようにしている。	○ 職員も、外部の研修や職場内研修会などの場で、更なる知識の習得できる機会をつくっていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際及び解約される際には、契約書・重要事項説明書等を説明者・家族共に読みあわせし、その都度疑問点や不安な点がないか尋ね、納得していただいたうえで、契約の締結・解約手続きを進めている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人代表・管理者・職員は、利用者より意見・不満・苦情が聞かれた段階で早急に事実確認を行い、対応している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、入居者ごとの月次報告書を発行し、入居者の生活ぶりや健康状態を報告している。緊急に関しては、電話にて連携を図っている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内の受付担当者その他、行政や国保連の連絡先を明示している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や個人面談の時間を活用し、要望や意見を聴取できるようにしている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者及び家族の状況や要望に対応できるよう、日中に関してはフリーで動く事ができる職員を配置するようにしている。職員の欠勤時は、管理者がシフトに入り、対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動時には、利用者に影響が出ないように、書面での基本的な情報の引継ぎにとどまらず、異動前に共にシフトに入る事により、各入居者とのコミュニケーションの回り方など、現場にて引き継ぐ事により、影響を最小限にとどめるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人代表は、管理者・職員の個々の技量・力量をふまえ、現場での助言や教育を行なうようにしている。 ・各職員の力量・経験年数・取得資格などを考慮した研修参加への促し等を行なっている。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人代表は地域のグループホームやその他の事業所との繋がりを大事にしておき、研修会や交流会へ参加できるよう配慮している。 ・職員が他グループホームを見学する機会を設け、他グループホームの良い点をみつけたり、自分を見つめ直すきっかけとなっている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人代表は、管理者や職員の悩み、ストレスの軽減図れるよう懇親会の場を設け、傾聴し助言する環境整備に努めている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人代表は、管理者より各職員の状況を聴取できる機会を設け、個々の状況を把握している。 ・直接職員と話す機会を持つようにしており、各職員の状況を把握するよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用の相談があった際には、ご本人・ご家族共に面談をさせていただき、心身の状態、ご本人・ご家族を取り巻く環境などを聴取させていただいている。ご本人・ご家族の希望や抱えている課題、不安な点を聴取する事により、ご本人・ご家族の心配事を緩和できるように対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談にいらした方より主訴を伺い、現時点においてできる支援・使えるサービス等の情報提供している。担当のケアマネージャーとも連携を図り、当ホームのサービスが利用できない場合は、主訴を緩和できるよう支援している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が、当ホームにて他入居者と円滑に生活を送られるよう、事前面談を活用し、ご本人・ご家族からご本人の生活歴を伺い、それに沿った支援をする中で、ホームでの馴染みの生活が送れるように配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の中で、交わされるコミュニケーションを通して、各入居者のその瞬間の心情を理解するように努めている。利用者は人生の先輩という観点に立ち、日常生活内では、伝統的な風習や文化を教えていただく場となっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは入居時に、入居者とは離れた生活となっても、互いに家族の一員であり、ホーム職員と共に入居者を支援する存在であることを申し伝えている。入居後も、入居者がホームにて快適な生活を送れるよう、在宅時の生活の情報を聴取している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後も、入居者の生活ぶりが把握できるように、月次報告書や新聞発行を通し、ホームでの生活を紹介している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の事前面談や入居後のホーム内での会話において、入居者の馴染みの人物や場所などは把握するように努めている。聴取した情報をもとに、入居後も入居者の馴染みの関係が途切れないように、支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は、入居者個々の個性を尊重しながら、各入居者間の対人関係を把握している。入居者同士が、円満に生活を送れるよう、介入している。ホーム内での協力活動などを通して、利用者間の支えあう心が芽生えるよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、ご本人が遊びにいらっしゃる事もある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が、各利用者の希望・意向の把握に努めており、申し送り時や職員会議の場にて、周知するようにしている。各利用者の希望・意向などは、日誌などに書面として記録・保存している。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談などで、各入居者の生活歴や馴染みの習慣・生活、また入居前に利用していた介護サービスなどを把握するようにしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の事前面談などにて状況把握に努め、各入居者が入居前に送っていた生活のリズムを維持できるように対応している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族からは、面会時やカンファレンス時を利用し、入居者からは日常生活の中で意見を吸い上げ、介護計画に反映させるようにしている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は半年ごとに見直している。ただし、状況の変化が生じた場合は、その都度入居者・ご家族と話し合い、ケアプランの見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記載し、変化や対応方法についても記載するようにしている。日誌や申し送りにて、全職員が周知できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・ご家族の希望や要望を尊重しながら、柔軟な対応をするよう心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	週に一度、民生委員を含む町会の方々が交流に訪れている。その交流の際に、地域でのイベントに関する情報提供もあり、参加することもある。 ・市内の学生の体験学習の場として、活用していただいている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	各入居者の状況に応じて、介護保険以外のサービス（マッサージなど）を利用している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員の方々には、運営推進会議や地域ケア会議の際に、相談し助言を受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入居が決まった時点で、住居空間が変化する事により生じる混乱などの課題を予め予測し、ご家族などの協力を得ながら、ご本人のダメージを緩和できるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	入居者の方々と接する時には、入居者のその場での感情・状況に即した言葉かけや対応を心がけている。	
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	利用者の情報をご家族などから収集し、本人の嗜好や趣味、興味のある事、嫌な事などを把握するようにしている。疾病の状態などで、意思疎通が困難な入居者に関しては、筆談などを利用し、自己決定・意思表示していただいている。	
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	入居者と職員との間で交わされる日々のコミュニケーションの中で、利用者が今現在何を求めているのかを探り出し、生活に反映できるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	地域の理容院・美容院へ通い続ける事ができるよう支援している。服装も、入居前から着用していた物を持ち込んでいただき、入居後はご本人が好んで着用されるデザイン・色・素材などを考慮したうえで、職員や家族と購入へ出かけたり、ご家族に持ち込んでいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好は、職員が周知している。各入居者が、おいしく楽しく摂取していただけるよう、ここに合わせた食事提供を行なっている。後片付けは、職員と分担して行なうようにしている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が飲食したい物を、職員と共に購入に出かける入居者もいらっしゃる。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各入居者の排泄パターンを記録し、リズムを見出す事で、トイレでの排泄が行なえるよう支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人が入浴したいと思うそのときの心情を尊重し、希望に沿うよう努めている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の過ごし方を検討し、夜間に良眠していただけるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活において、入居者が行なってきた習慣や趣味を尊重し、ホーム内での生活でも継続して行えるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、入居者・ご家族と相談したうえで、入居者が金銭を所持するか否かを決定している。買い物時は、入居者に支払いを行なってもらえるように、支援している。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調を考慮し、花の水やりや、散歩、買い物やドライブなどの外出する機会を設けている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の思いにそって、各入居者のその時に行きたい場所や縁の場所への外出を、支援している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があれば、ホーム内に設置されている電話を使用する事は、可能である。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は決まっておらず、いつでも受け入れられる態勢となっている。入居者の居室への外泊を希望されるご家族には、宿泊していただけるよう対応する事は、可能である。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者ならびに全職員は、身体拘束における入居者に与える弊害を理解している。現時点では、身体拘束が必要な入居者はいないが、今後やむを得ず身体拘束が必要な場合には、ご家族へ状況を報告し、理解を得た上で、行なう。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者ならびに全職員は、鍵をかける事による弊害を理解しているが、ホームの立地条件上、安全面を考慮し、施錠されている事が多い。	○	開錠されている時間を、少しずつ増やしていきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、過度な見守りは控え、安全に配慮した状況把握に努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な洗剤類は、利用者の目の届かない場所へ保管している。入居者より、鋏や爪きり、裁縫道具の使用希望があった際には、職員の見守りにて使用していただいている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各入居者の状況に合わせた援助をする事により、事故防止に努めている。事故が発生した場合には、全職員で、再発防止について討議している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時における対応マニュアルを配備している。職員は、交代で救命講習会を受講している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年4回実施している。	○	地域の方々にも、協力要請を行なっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	カンファレンス時に、ご家族には現時点において想定されるリスクを説明し、対応を決定している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居時に、既往歴・アレルギー等の情報を提供していただき、全職員が周知している。職員は、毎朝のバイタルチェックの数値や歩行状態、顔色などの様々な視点から、体調変化を早期に察知できるようにしている。体調変化があった際には、日誌に記載し、全職員が周知できるようにしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現時点において処方されているお薬情報をファイリングしており、職員がいつも閲覧できるようにしている。薬の処方変更があった際には、往診結果に記載し、全職員が周知できるようにしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の要因や影響を理解しており、食事や水分提供の際に、排便が促進されるよう配慮している。日常的に、体を動かす機会を設けるようにしている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	各入居者の状況に合わせた、うがいや歯磨きなどの口腔ケアを、見守りや介助などで実施している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、職員が各入居者状況を把握できるようにしている。食事における摂取カロリー数は、栄養士が作成した献立を使用し、把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアル及び発生後の対応マニュアルを作成し、職員が閲覧し周知できるようにしている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・台所の除菌は毎日行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、季節の草花を植えた鉢植えを飾り、道行く地域住民の方々からも、好評を得ている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内は季節感を感じられる装飾や、利用者が作成した作品を掲示している。トイレが、玄関・リビングに近い為、不快感を受けないよう、防臭に努めている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファや食卓テーブルを配置し、各入居者が談話の場や趣味を楽しめる場として活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	各居室は、自宅より使い慣れた家具などを 持ち込んでいただき、ご家族の写真など を飾り、個性のある居室作りをしてい る。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	入居者及びホーム内の状況を観察しなが ら、換気や温度管理をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	ホーム内には、各所に手すりを設置し、 残存機能を生かした生活を送れるよう 支援している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	各入居者の特徴を理解し、物品を移動 したりしないようにしている。トイレ などの場所がわかりやすいように、 文字のほかにはイラストでの掲示も している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	玄関先に鉢植えの花を設置する事によ り、花を見る事が好きな入居者が、日 光浴しながら観賞している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年より行なっている、町会の女性部の方々との交流会も、週一回のペースで継続しており、一緒にお茶を飲みながら、談話や歌唱、踊りなど、地域の方々との交流の時間を楽しまれています。交流を始めた頃と比較し、散歩や買い物などの外出先で会った際、気軽にお声をかけていただいたり、花や野菜などのおすそ分けをいただくなど、馴染みの関係を築きつつあると、感じております。